

令和8年度 学校経営案（抄）

1 教育目標

駒方中学校教育目標

たくましく しなやかに生きる生徒の育成

子どもたちが、変化が激しく予測不能な未来を生き抜く「たくましさ」や「しなやかさ」を身に付けることを目指す。

2 教職員の行動原理【教育活動の土台】

行動原理 S L M（スリム）の原則

S : Safe/Secure（安全）

L : Learning（学び）

M : Memory（思い出）

S 私たち教職員は、何より子どもたちの安心・安全を最優先に考えます。子ども一人一人のコンフォートゾーン（安心できる領域）やストレッチゾーン（過度な負荷がかかる領域）を見極め、安心して生活できる学校づくりを目指す。

L その上で、子どもたち自身がコンフォートゾーンから自らチャレンジをしてストレッチゾーンにおいて成長する学びを構築する。パニックゾーン（自己制御不能になる領域）に陥らないように寄り添いながら、子どもたちに委ね支える。

M さらに、安心・安全が確保され、学びが保証されている中で、子どもたちがチャレンジすることで得られた気付きや成長が詰まったよい思い出がつかれるような教育活動を展開する。

3 教育方針

【こまがたポリシー（仮）】

こ…交流（同学年、異学年、異校種、地域などとの交流を進める）

ま…まごころ（自他ともに敬愛する気持ちを醸成する）

が…学習（学び・学び合いを深める。）

た…探究（探究的な学びを進める）

こまがたの四文字に表された教育方針は、互いに密接に関連するものである。激しく変化する社会の中で、たくましくしなやかに変化を乗り越え、よりよく自らの人生を切り拓いていくためには、他者との協働、自律して学び続けることが不可欠である。私たち教職員は、先の教育原理を胸に、子どもたちに委ねるところは委ね、子どもたちが夢中で探究し、他者と交流を経て、学びを深める教育活動を進めていく。

交流と探究の中の一つのねらいとして、子どもたちの自治能力の向上を目指していく。よりよい学級や学年、学校づくりに向け、子どもたち自身が課題意識を持ち、子どもたち自身が解決策を探究し、交流の場で子どもたちが話し合うことで解決方法を模索していく取組を大切にしていく。

4 令和8年度の努力点

(1) 主題

自ら考え、決め、動く生徒の育成
～自律・自治を目指した交流と探究のあり方～

(2) ねらい

前述の教育目標に掲げたとおり、変化が激しく予測不能な未来を生き抜く子どもたちには、「たくましさ」や「しなやかさ」を身に付けてほしいと考えている。本校は3年間にわたり「向上心をもち、自分の考えをもって対話する生徒の育成～

「協働」する場での『主体的な学び』『対話的な学び』を通して～」をテーマに、夢や向上心をもち前向きに取り組もうとする心（向上心）を育てるべく教育活動を進めてきた。結果、グループワークやディベート、タブレットの活用など、協働する場を工夫することで、向上心を育むことが重要であることが分かった。

一方で、子どもたちをさらに育むためには、さらに多様な相手と交流する機会を設けたり、育んだ向上心をさらに生かすような探究的な学びを展開したりすることの必要であるが、従来の教育課程では時間的な制約が多いことが浮き彫りになった。

そこで、今年度は、研究開発学校としての柔軟な教育課程を基にして、交流と探究のあり方を模索し、子どもたちが自律的に学びあるいは学び合い、自らの学校生活の向上に向けて行動できる子どもたちを育てていきたい。

(3) 実践の内容

柔軟な教育課程（1コマ45分授業）とし、本校の裁量時間として、毎朝20分と昼帯10分を交流と探究の時間を週時程に位置付ける。

交流

- ・上級生が学校生活・学習方法等について新1年生に伝える。
- ・学級や学年、学校の人間関係等の課題について、話し合いで解決する。
- ・宿泊行事や探究等で得た学びを、同級や同学年、異学年等に伝え合う。
- ・学校生活で得た学びを、小学生（とその保護者）に伝える。

探究

- ・個人の課題意識を基に、計画を立て、探究する。
- ・総合的な学習の時間における探究課題を深める学びを進める。
- ・タブレット等を用いた個別の教科学習も進める。

(4) 推進計画

4月	努力点の設定
5月～7月	各自の努力点実践計画作成 各学年・各学級・行事等での実践
7月～8月	文献研究等
9月～12月	各学年・各学級・行事等での実践
1～2月	実践のまとめ 現職教育(努力点報告) 次年度の努力点の検討、設定